

みんなで考える厚岸町の10年後 夢が広がるまちづくりワークショップ 結果報告書（第4回）



厚岸町

目的

平成22年度に策定された第5期厚岸町総合計画が、平成31年度をもって終期を迎えます。

総合計画とは、厚岸町が目指すべき将来像を、10年先を見据えて総合的に策定するものであり、その策定に町民の意見は欠かせません。

本ワークショップは、新たな総合計画を策定するにあたり、町民の方々のご意見を広く反映すべく開催するものです。

10年先を見据え、これからの厚岸町をよりよく発展させるべく、ワークショップで生まれた町民の方々のご意見を検討し、その中から、新たに策定する厚岸町総合計画にふさわしい意見を選考し、反映させていただきます。

第4回となる今回のワークショップでは、「学校教育、生涯学習、文化、スポーツ、コミュニティの育成、人権尊重・男女共同参画」の分野について、意見交換を行いました。

概要

- 日 時：平成30年12月1日（土） 13：30～15：30
- 場 所：保健福祉総合センター（あみか21）1階 検診スペース
- 対 象：厚岸町民
- 主 催：厚岸町
- グループ：5グループ（計28名）
- テーマ：個性と感性がきらめき、みんなでつくる協働のまち厚岸

A班

現状や実体験

文化

発表の場がない
(会場)

発表の会場がない
福祉センター高い

文化協会団体加盟
が減っている

イベント場所が
ない

福祉センターの
使い方

文化施設が分散され
ている。郷土館・海
事記念館など

生涯学習

習い事。町内で学
べる環境がない。
指導者がいない

習い事にお金がか
かる。親の負担が
大きい

学校教育

遊ぶ場所が
ない

少年団活動は
学校活動では
ないので一度
家に帰る

ゲームに依存
する子どもが
増えている

Wi-Fiの環境を
求めて、環境
のある施設に
集まる

理想

文化

町が所有する
ホールが必要

音響等が整備
されたホール

福祉センター
の利用料を下
げて、利用し
やすくする

一つの資料館
をつくる

生涯学習

文化ホールと
集合ホールが
別に必要

学校教育

門静駅の周辺に
公園等がほしい

集まりやすい
環境づくり

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

文化／生涯学習

多目的ではなく、目的
に応じた施設づくり

文化ホール

指導者の
育成

コミュニティバス
の運行
一時間に一本程度

イベント
ホール

イベントに
積極的に参
加する

学校教育

子ども向け講座が
あればいい。文
化・スポーツ

公園等の
遊ぶ施設

A班のまとめ

文化発表会等が厚岸町にはあるが、発表の場がない、施設使用料が高い等の課題がある。理想としては、音響機材の整備された町保有のホールがあると良い。もしくは、既存施設の利用料が下がると良い。また、廃校をリノベーションして会場とし、利活用してはどうか。今後は、多目的ではなく、目的を持った施設づくりに努め、人の集まる環境づくりを進めてほしい。

教育については、習い事が少ない、習い事にかかる金銭的負担が大きい、送迎等で親へ負担がかかるといった課題がある。また、遊ぶ場がなく子どもたちがWi-Fiのある場所に集まりゲームするという問題もあった。今後は、遊び場の整備を進めるほか、行政が主導し、民間人を指導者とする形で、地域で子どもを教育していきたい。

B班

現状や実体験

スポーツ

部活やってる子どもが少なくなってる

家庭の時間を割いている指導者に対する支援（金銭も含めて）

部活が親の負担になる

スポーツを行う環境が整っていない

文化

文化発表を行う施設音響などがない

文化・歴史が古いPR方法

生涯学習

施設・車輛の利活用があまりされていない

理想

スポーツ

スポーツの指導者が少ない。身体能力は高い

スポーツを行う環境、大人より優先すべき投資

健康増進して老後も元気に

地域で子どもたちを応援する体制づくり

釧路までの交通費を町で支援

生涯学習

厚岸の生涯学習の領域をもっと広く

医療費を抑える生涯学習の充実

体制・環境を整えて子どもが選択できるように、地域で

学校教育

翔洋高校との取組が少ない

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

スポーツ

金銭的バックアップ

親の送迎負担の軽減

送迎できる人を登録ボランティア

有料ボランティアを活用

指導者となるような人を登録する

生涯学習

生涯学習に取り組むことを行政が宣言

休校の再利用

コミュニティの育成

お祭り・イベントの日数を増やす

アカシヤカーニバル復活

既存イベントの参加者を増やす

強制的に寄付（町民）

B班のまとめ

スポーツについて、子どもが部活に参加する際の親の負担が大きい、部員数が少ない、指導者が家庭の時間を割いているといった課題がある。理想としては、子どものためにスポーツ施設の整備、地域で子どもたちの部活等を応援する体制づくりができれば良い。行政には金銭的なバックアップや、休校等の施設について有効活用を進めてほしい。地域の方には、有償で送迎のボランティアや指導者になってもらえたら良い。町民については、既存イベントを盛り上げるなど、一致団結して町を盛り上げていきたい。

文化では、文化発表を行える音響の整備された施設がない、歴史のPRがされていない等の課題がある。最後に、町長が、町ぐるみで生涯学習に取り組んでいくという宣言をして活性化を図ってほしい。

C班

現状や実体験

学校教育

福祉教育
社協から出前講座
厚岸小学校へ

外部講師からの
刺激あり

職場見学、体験

ゆとり教育から
詰め込み教育へ

朝知らない人へも
あいさつが
できている

生涯学習／文化

外国人実習生との交流
おりがみ教室の実施

町民文化祭
参加者の減少

コミュニティの育成

自治会行事、参加者は
毎回同じような人たち

高齢者の見守り、声
かけ

スポーツ

スポーツ
オリンピックで金
野球ドラフト

理想

学校教育

福祉教育、町内全
学校へ広げたい

色んな分野での
指導者の発掘

スポーツ

これから目指そうと
する子への
バックアップ

結果が出なくても
大丈夫という
雰囲気づくり

生涯学習／文化

厚岸音頭の継承
指導者の育成

コミュニティの育成

楽しく参加
できるような工夫を

自治会の横のつながり
があると良い

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

学校教育

行政・社協
福祉教育の発掘

学校教育への外部講師
民間・団体から

コミュニティの育成

地域・自治会行事へ
参加しやすい工夫

町民、自治会活動への
積極的な参加

スポーツ

行政
指導者の育成

C班のまとめ

学校教育については、社協職員が福祉教育を学校で実施している事例をかんがみ、地域でさまざまな職種の方がこうした教育活動を実践できると考える。また、こうした活動が、地元への就職につながっていくのではないだろうか。文化については、厚岸音頭はあるものの指導者が減少している。そこで、指導者の育成が必要だ。コミュニティについては、自治会加入者が減少している中で、行事の参加者がメリットを感じることができるよう工夫が必要である。スポーツについては、選手を応援するために、町民として寄付金集めなどができるのではないだろうか。最後に、厚岸の子どもは地域の人に挨拶ができるという話が挙がった。こういった良さも膨らましていけたらと考える。

D班

現状や実体験

学校教育／スポーツ

場数が少ない

選択肢が少ない

周りに同じ年代の子が少ない

人が集まらなくてスポーツできない

今の子どもは個性が強い

町で何か絞ったスポーツに取り組んでは

スポーツ団体の情報周知

人手不足

文化

祭がマンネリ化している

コミュニティの育成

見守りの安心感がない

近所付き合いが少ない

自治会活動が少ない

加入率低い

理想

学校教育／スポーツ

都会でもできる
習い事をさせたい

町や情報館にまとめて
周知できる場所を
つくってほしい

コミュニティの育成

自治会だけでなく
誰でも集まれる
場をつくってほしい

文化

ロックフェス等
をやってほしい

町民参加型
イベントを

町から出て行った人
でも戻って来れる町に

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

学校教育／スポーツ

町の魅力を
高める

企業誘致し
人口増

長期の避暑地
誘致

合宿地誘致

文化

幅広く地域の
人を呼んで
イベント会議を開く

コミュニティの育成

地域担当制を
つくる

町や社協の補助金を
活用できる機会を

D班のまとめ

今の子ども達は周囲に同年代が少ない、習い事の選択肢や発表の場が少ない現状にある。また、スポーツは参加者が少ないため実施しづらい。こうした中で、町で取り組むスポーツを絞ることで、実施につなげていけるのではないかと。理想としては、子ども達に都会でもできる習い事やスポーツをやらせてあげたい。また、こうした情報をまとめて周知できる方法があれば良い。

人を集めるためにも、大企業の誘致、避暑地としての誘致、合宿地としての誘致を行ってはどうか。

祭やイベントがマンネリ化している中で、地域の人々の意見を取り入れ、ロックフェスを同時開催するなど新たな取組も検討するべきだ。コミュニティとしては、近所付き合いが減り、安心感が低下している。こうした中で、町の職員に地域担当を作っていただき、自治会活動を盛り上げてほしい。

E班

現状や実体験

コミュニティの育成

真竜と本町では生活スタイルが違う。近所との付き合い方もちがってくる

フルタイムで働いていると地域活動に参加する時間がない

世代間のつながり（連携）がむずかしい（価値観のちがい）

老人クラブ、自治会に入らない人が増えている

近所付き合い深さが難しい

老人が集える場所があると

独居老人が多くなった

異業種でも気軽に集まる機会ないものか

人権尊重・男女共同参画

男女共同参画は厚岸町においては農業・漁業で最先端をいっている

男女共同参画という言葉を使う必要ない

人権尊重、子どもたちには無意識にできている。大人の考え方も変える必要あり

学校教育

子どもが少ない、コミュニケーションのとり方がわからなくなってきている

家庭でも体験させなさすぎ、親の感覚が変化した

都会で身に付けた技術などを活かせる場が厚岸にあるか

厚岸に残りたい子は結構いる。子どもたちの希望を叶えられる職場があるか？

子どもたちへの支援が不足

課外活動などへの役員不足

町外から通勤してくる先生が増えた

学校で体験させなさすぎ（木のぼり危険など）

外で遊ぶところがなくなった

本町では子どもを見ない日もある

真竜側より本町の方が子どもが少ない

スポーツ

スポーツに対しての助成が少ない

理想

学校教育

親・子・学校のコミュニケーション

学校と親が協力して子どもを育てる

将来への投資、産み育てられる支援の次のステージ

高校のレベルの底上げを

親の意識少し変えよう、子のしつけ、コミュニケーション

スポーツ／文化／生涯学習

色んなことを子どもが体験できる厚岸

子どもの選択肢を多く

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

学校教育

親が学校活動への時間を少し増やす

子どものやりたいを応援する

スポーツ

有名スポーツ選手に会える機会をつくる

今、スポーツにバックアップする時期

コミュニティの育成

町内のイベントにどんどん参加する

町内に住んでもらえるとコミュニケーション取りやすい

その他

釧路市、釧路町に来た時、厚岸にも足を運んでもらう努力

厚岸の良いところを見つける。具体的に100選

やっぱり厚岸がいいと思える環境を

E班のまとめ

学校教育については、子どもが少ない、子どもがコミュニケーションを取ることが苦手になっている、遊び場が少ない、等の課題がある。理想としては、学校教育について親・学校・子どものコミュニケーションを深めることができたら良い。今後は、親が学校教育に参加する時間を少しでも増やしたら良いと思う。

スポーツについては、子どもがスポーツに取り組めるように支援が必要だ。そこで、行政による金銭的な助成があると良い。また、有名選手を町に呼び、子どもにスポーツを指導するのも良いと考える。

コミュニティについては、世代間の連携が難しい。祭やイベントに集まることで、コミュニティが育っていく。そのため、町民は町内のイベントにどんどん参加するべきだ。

第4回ワークショップのまとめ

第4回は、学校教育、生涯学習、文化、スポーツ、コミュニティの育成、人権尊重・男女共同参画についてワークショップを開催しました。町民一人ひとりの個性や感性を大事にし、協働でまちづくりを進めていくためにも、行政だけでなく、町民や地域団体などのさまざまな主体が協力していくことが求められています。

第4回ワークショップのまとめは、以下のとおりです。

一人ひとりの個性や感性を育むための環境の整備

習い事が少ない、スポーツの選択肢が少ない、文化発表を行う場がないなど、生涯学習やスポーツ、文化分野においてさまざま課題があげられました。町民一人ひとりの個性や感性を育てていくためにも、各々が多様な選択肢の中から、充実した余暇活動に取り組むことのできる環境整備が求められています。

こうした環境を町内に整備していくためにも、行政による助成や、町民による部活動の送迎・スポーツ指導等、実現可能な内容を検討し、実施していくことが必要です。また、町内だけで対応が困難な課題については、近隣の市町村と連携して対応していくことも重要と考えられます。

地域で子どもを育てる教育体制の構築

遊び場所が町内に少なく、最近ではWi-Fi環境を求めてコンキリエにゲームを持って遊びに来る子どもがいたという事例や、子どもの数が減少しているために、友人等とコミュニケーションを取る機会が減少しているのではないかということの危惧など、子どもに関する課題が上げられました。

このように、現代の子どもたちは、情報化社会、少子超高齢社会においてさまざまな課題を抱えています。そこで、家庭や学校だけでなく、地域ぐるみで子どもを育てていくことが重要です。ワークショップでは具体的な提案として、地域の人々が主体となって子ども向けの講座を開催する、また、地域の人々が外部講師として学校教育へ参加し子どもと交流を持つなどが上げられました。

つながりの強化

以前に比べて近所付き合いが少なくなった、自治会や老人クラブの加入率が減少している、地域活動の機会が減少しているなどの現状が上げられました。こうした中で、見守りの安心感がないといった課題が上げられています。

今後は、地域の人々のつながりを深めていくためにも、町民同士が交流する機会を確保していくことが重要です。今回実施したワークショップも町民のつながりを深める機会となっているため、こうした機会を大切にしていくことが重要です。また、町民意識を醸成し、既に実施しているイベントに対する参加者の増加を図ることも求められています。

みんなで考える厚岸町の10年後
夢が広がるまちづくりワークショップ
結果報告書（第4回）

発行年月：平成31年2月

発 行：厚岸町

編 集：厚岸町総合計画策定委員会（まちづくり推進課 企画調整係）

住 所：〒088-1192 厚岸郡厚岸町真栄3丁目1番地

電 話：0153-52-3131

F A X：0153-52-3138